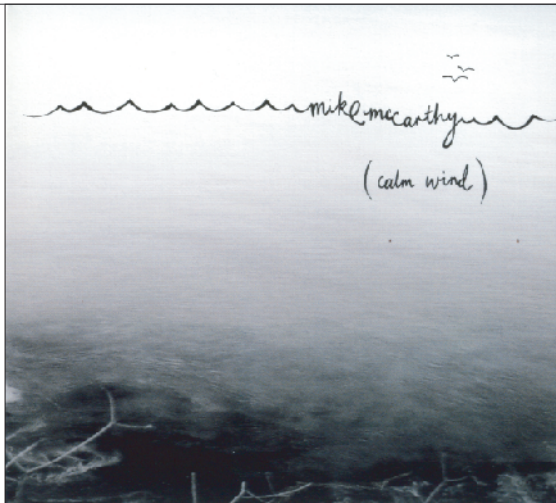


Mike McCarthy "Calm Wind"

マイク・マカーシー「カーム・ウインド / 凧」

¥2,625 (消費税込み) UD-2034

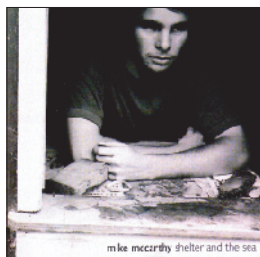


- 1 Prepared for this
- 2 Bitterness sweet
- 3 Calm Wind
- 4 Fire escape
- 5 Camouflage
- 6 All she does
- 7 Angeline
- 8 Waiting on the tide
- 9 Fought and failed
- 10 Every last piece
- 11 In a name

Sound Sample

Recording at Terrigal / NSW / Australia
Mastering by Steve Smart at Sydney 301 studio

マイク・マカーシーのサードアルバムのレコーディングはマイクが生まれ育った、そして今も暮らすテリガルで行われた。シドニーから2時間、美しい海岸線のビーチタウンの乾燥した空気がサウンドをピュアーに響かせる。曲作りとリハーサルに約14ヶ月、レコーディングはシンプル&ナチュラルを信条に1発録りで完了した。マスタリングはスティーブ・スマート。デビッド・ボウイ等のビッグネームもスティーブにマスタリングを依頼する達人である。



EP
"SHELTER AND THE SEA"

UD-2034

サーフ系アーティストとして紹介されたマイクはその壁を打ち破り、サーファー以外からの指示を得始めている。メロウでシンプルなライフスタイルこそ現代人の憧れ、ゆったりとした時間の中で暮らし創造された音楽は、「カントリー・ビーチスタイル」として定着し始めてもいる。音楽はTP0で選ぶならば、マイクの音楽は波と調和するようなグライド感を味合わせてくれる。



Album
"Fire Flood Freedom"

UD-2011

「極上のメロウ・フィーリング」

オーストラリアでの評価は極めて高い。広大な海岸線を回りながら演奏活動を続けるスタイルに共鳴する根強いファンで、ライブはどこも盛況。オーストラリアには珍しく綺麗系レディーのファンが多いのは不思議であるが、彼女達は口を揃えてマイクの事を「ヴェリー・オージー（とってもオーストラリア人）」と言う。最近では失われつつ強く優しいオーストラリア人男性の理想像がマイクに見え隠れするのもかも知れない。決して容姿端麗ではないし、お洒落もしていない。それでも日本のジーンズメーカー、エドウィンのビジュアルに起用されるからには何か魅力があるのだろう。

2005年日本初来日では福岡サンセットライブの他、鹿児島、小田原ではKEISONと競演、東京のオーストラリア大使館でのパーティー、インターFMやFM横浜のサーフィン系番組に生出演と「日本のタウン&カントリー」を旅した。

2006年は、サーフ系ミュージック&アートイベント「グリーンルーム」5月21日(日) 大阪 27日(土) 横浜 大棧橋グリーンルームに出演。また26日(金) 新宿タワーレコード、MTVイベント、FM横浜、インターFM、FM802等へ出演した。